

## 2010年度 ディアコニア 事業計画

1. 利用定員  
入所 80名  
ショートステイ 8名  
デイサービス 20名
2. 職員数 79名
3. 事業開始年月日  
特別養護老人ホーム 2003年5月1日  
デイサービス 2003年6月1日  
ショートステイ 2003年7月1日  
訪問介護 2004年6月1日  
居宅介護支援事業 2004年12月1日
4. 基本理念
  - (1) キリスト教の精神に則り、多様な福祉サービスを利用者に提供する。
  - (2) 一人ひとりを大切にす、そのことが個人の尊厳を守ることに繋がる。
5. 運営重点目標
  - (1) チームで行う介護（協働作業）
  - (2) 現任及び新任職員への理念研修計画を立て、年間を通じて実施する。
  - (3) 利用者の生活の質の向上を目指し、新たに委員会を立ち上げ年間を通して計画・実行をする。  
委員会メンバーは自薦、他薦を問わず有志を募る。幅広い活動になるため部会制にする（ボランティア・イベント・ギャラリー・外出等）
  - (4) 個人の介護力のレベルアップを図る(研修委員会と連携して個人の目標管理を設定しチェック方式を導入する)。
6. 施設目標に沿った各職場の事業計画
  - (1) 介護老人福祉サービス事業
    - 介護
      - ・ 他職種を交えたケアカンファレンスを定期的を実施
      - ・ 情報の共有化(パソコンを有効利用)
      - ・ 余暇活動の充実(三大介護の基本は勿論のこと)
      - ・ 個人の介護力のレベルアップ(チェックシートを使う)
      - ・ 職員相互の勉強会(職員が講師になる)
      - ・ 職員用サロンを作りお互いの交流を深める
    - 看護
      - ・ ターミナルケアへの継続した取り組みの実行
      - ・ 機能訓練計画の充実と実施
      - ・ 研修への積極的参加
      - ・ 経口移行への取り組みの継続
      - ・ 委員会活動への参加を増やす
    - 栄養士
      - ・ 栄養ケア・マネジメントの充実
      - ・ 食事を楽しく摂れる工夫の検討・実施
      - ・ 経口移行への取り組みに協力

- ・ 安全な食事形態の工夫（なめらか食）と実行

#### 相談員

- ・ 入居者の方々の生活の質の向上を更に考えていく。
- ・ 家族との関係強化、事故・拘束等家族との密な連絡を実施。
- ・ 身体拘束をなくす（事故防止へとつなげる）
- ・ 入所申し込み者の面接を実施し、現状把握に一層努める。
- ・ 外出企画への協力
- ・ ボランティア活動への協力  
具体的には園芸・草取り・農作物の栽培を家族、地域の協力を得て実現させたい。

#### 施設ケアマネージャー

- ・ チームケアの一員として施設サービス計画書の作成。
- ・ サービス担当者会議を通し、入所者の生活課題と援助目標に対する共通理解を深める。
- ・ 細やかなモニタリング（評価）・アセスメント（情報収集）の実施と入所者・家族の思いを汲み取れるような関係の構築。
- ・ 入所者本位の「生活の質」を高めるための社会資源の活用
- ・ 他職種との十分なコミュニケーションと信頼関係の形成を通し、チームケアの一員として施設サービス計画書を作成する。

#### 事務・その他

- ・ 廊下のワックス塗装（北館建物が建築から7年経ち、点検が必要）
- ・ 障がい者の雇用と障がい者作業所との連携を深める。

#### チャプレン

- ・ 自分の存在を否定されるように感じたり、存在感を失ったりするところに発する心の苦痛（スピリチュアルペイン）のケアに取り組みます。  
「利用者のご家族に対する傾聴」と「ケアに携わる職員の相談援助」により、実践に努めます。
- ・ ターミナルケアのチームとしての協働に取り組みます。  
看取られる人、即ち終末期にいる人に対して、主に情緒面に視点を向けて関わりをもちます。  
看取る側にある人、即ち家族/友人・或いはケアに携わるスタッフに対して主に情緒面・精神面に視点を向けて関わりをもちます。

### （２）ショートステイ

- ・ ユニット業務における、役割分担の設定と周知
- ・ 各職員の得意分野を活かしたレクリエーション等の実践
- ・ 相談員と介護職員間の情報の共有を強化し、利用時以外のご利用者の生活の把握に努める。

### （３）デイサービス

- ・ 稼働率90%を目指す。
- ・ 研修への積極的参加。
- ・ 利用者の満足度アップを目指す。
- ・ 新体制による職員間、家族、各事業所ケアマネ等の連携を図る。
- ・ 通所介護の計画書の作成、評価、見直しの流れを定着させる。

( 4 ) 訪問介護

- ・ ヘルプの職員を含めた症例検討を行う。
- ・ サービス量を増やす営業努力の実行。

( 5 ) 居宅サービス支援事業

- ・ 現状では新規希望者を受け入れられない状態であるため増員の計画。
- ・ 一人ひとりを大切に丁寧な支援。
- ・ ケアマネ同志の情報の共有と症例検討を実施する。

以上